

事業報告書（令和 7 年度）

事業名 岡山から始める学習動画コンテンツを取り入れた
「備え×片づけ隊」のコミュニティ構築・運営

団体名 OKAYAMA お片づけチーム momo 担当者名 安藤 雅子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

防災備えの 6 ステップを 18 本の講座コンテンツ動画として制作。

事前に行っていた各種防災講座や岡山市内公民館へのご案内を行い、9 月 1 日防災の日に合わせてオンラインでの周知イベントを開催。

公民館職員の方、一般の方の参加を得る（全部で 10 名ほど）



その後、一宮公民館、操山公民館の講座として防災備えの 6 ステップを活用した「備え×片づけ隊」の開催が決定。

一宮公民館では 1/30 2/6 2/17 の 3 回講座

操山公民館では 2/7 3/7 の 2 回講座として実際に備えの行動を地域のメンバーで行うこととなる。

具体的には

- ① 備えの必要性を考える
- ② 0 次防災グッズを揃える
- ③ ハザードマップを理解し、自分たちの行動を決める
- ④ 自宅避難における食糧の備蓄を揃える
- ⑤ 自宅避難におけるライフラインの備蓄を揃える
- ⑥ 非常持ち出し袋を一人 1 袋準備し、取り出しやすい収納をする

(様式第 8 号)

これらを 2～3 回に分割し実施。次回参加までには揃えることを宿題とし実装を実現する防災講座を行なっている。

現時点で一宮公民館の全 3 回が終了。(各回 10 名前後参加、単発参加可能)



操山公民館でも現時点で約 15 名申込、第 1 回を終了している。

講座内を極力参加者主体の時間とするべく、動画を事前視聴資料として活用。さらに講座受講後の振り返りとしても活用。

OKAYAMAお片づけチーム
momo presents

もう後回しにしない！

スキマ時間で **我が家の防災力アップ**

動画でわかる **防災備えの6STEP**

YouTube 無料公開 移動中・家事の合間に！
「わからない」→「できる」

備え×片づけ隊

また、今回制作した動画は各公民館講座・自主講座・コラボ講座でも使用。

自宅で隙間時間に備えの行動に繋げるツールとして周知活動を行い、現時点で 708 回視聴されている。(累計)

2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

防災に関する講座を受けて終わりの受け身ではなく、実際に自分自身が備えの行動に移し、相互にコミュニケーションを取りながら一緒に実践すること。

主体的に取り組む人材を増やすこと。

取り組んだ方が、さらなる波及者となり防災の輪を広げるパートナーとなること。

② どのように学び合いを取り入れたか

備えの6ステップは事前に視聴してもらい、知識は先に入れていただき、講座当日は参加者同士の情報提供や話し合い、共有の時間を中心にして主体的な関わり方を意識した。

※別紙にて講座開催概要を添付

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

一般的な「最善」とされる方法をただ実践するのではなく、自分や家族に合った「最適」な方法を自ら考え、必要なものを選び取り、維持しやすい仕組みを作るためのステップを構築したこと。この取り組みを通して、単に防災意識を高めるだけではなく、0次防災グッズ、ハザードの理解と行動決定、自宅避難のための備蓄、一次避難グッズ、暮らしの整えまでを完成することで自助力を身につけることができるようにした。

また、一緒に参加した仲間との繋がりを通して自助から共助への足がかりを作った。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

防災に関する講座を受けて終わりの受け身ではなく、実際に備えの行動に移し、相互にコミュニケーションを取りながら楽しく実践することが主体的にできていること。

一律の備えではなく、自分ごととして捉え、日常のものの持ち方と万が一の備えという「いつももしも」を意識する方が増えたこと。

またその実践を周りの人にも勧めたいと声を上げてくれていること。

実際に一宮公民館の3回講座を終え、将来的に地域のリーダーとなってくれる人材が2名（年配の方、子育て世代の方）生まれ、継続的な取り組みと周囲への波及に意欲を示してくださった。

3回講座が終了した一宮公民館では、来年度も2期生のような継続開催の希望をいただくとともに、今回参加された方と継続的に学びあう時間を作りたいとのご意見を頂いた。





実際に行動に移し備えたものを全体に共有してくださる様子

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

本事業は、誰もがいつでも少しの時間で防災に触れる動画コンテンツ作成を皮切りに OKAYAMA お片づけチーム momo が実施する全 3 回連続講座を一例として、「学びで終わらせない防災」を目的に公民館連携で取り組みである。防災備えの 6STEP に沿い、0 次防災・ハザードマップ確認・食料備蓄・ライフライン対策・非常持ち出し袋の整備までを段階的に実践し、期限を設けて宿題報告を行うことで、参加者が実際に「備えている状態」に到達する仕組みを構築した。

その結果、参加者が自分や家族に合わせた備えを具体化し、行動変容へとつなげることができた点は大きな成果である。一方で、今後の課題として、①防災に関心の薄い層への波及、②単年度で終わらない継続的な実践の仕組み化、③地域団体・学校・行政との連携強化が挙げられる。

今後は、公民館を拠点とした学びの循環を強化し、参加者が次の実践者を生み出す「地域内伝播型モデル」へ発展させたい。また、片づけ・収納の視点を活かした防災啓発を通じて、日常生活と防災を分断しない文化を地域に根づかせる。

また防災を通して「自ら考え、選び、行動する力」を育て、自助へ繋げるものである。特に、日常の備蓄や循環型ストック管理、無理なく続く仕組みづくりは、環境負荷軽減と災害対応力向上を

(様式第 8 号)

両立させる持続可能な生活実践である。例えば、日用品の循環備蓄や省エネルギー型の備え、廃棄を減らすストック管理などは、災害対応力の向上と同時に環境負荷の軽減にもつながる実践である。

気象変動適応を含めた環境教育との深い相互連携で学びを深め、地域の環境団体、教育機関、自治体、企業など多様な主体と協働し、「日常の暮らしの中でできる適応行動」を広げていくことを重視する。

最終的には、災害時だけでなく平時から支え合い、資源を大切に、変化に柔軟に対応できる“しなやかな岡山”の実現を目指す。